青嶺 seirei

文責　田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

一年間本当にありがとう

三月の過ぎていく時の流れの速さに驚きながら、そして別れの寂しさをしみじみと感じながら修了式がやってきました。

皆さんは、長い間お世話になった先生方とお別れしなければならない現実を受け止められましたか？悲しくて、まだ受け止められませんか？

いつもそばにいてくれることは当たり前ではなく、必ず終わりがやってきます。その時にやり残したことをできるだけ少なくし、精一杯一緒に頑張れた！と思えるように先生方はあなたたちと接してきました。

だから、寂しさや悲しさを胸に秘めながらも、これからの活動を通して成長した姿を見せることで、遠くへ行く先生方を安心させてほしいです。別れるのが悲しくなるほどの素晴らしい出会いに感謝しながら…

転出職員の紹介

令和６年度の定期人事異動により、転出・退職した職員を紹介いたします。

＊＊＊　＊＊　＊＊＊

退職された先生方、転出された先生方におかれましては長年、青嶺中のために力を尽くされ心より感謝申し上げます。新天地でのご活躍をお祈りいたします。

ゲストハウスで考えた（その２）

石垣島のゲストハウスは町の中心部の雑居ビルの中にあり、若者や外国人のゲストが多く、きれいで居心地が良かったです。食事のおすすめをスタッフから聞くとマグロが獲れているからと、魚屋で刺身を購入して、ゲストハウスで食べました。

お酒も入りいい気分になってきたところで、川崎の消防士のオオヤ君、スタッフの梅ちゃん、ドイツからの旅行者ルナ、オーストリアのサラとのリビングでの国際交流が大変盛り上がり、楽しく夜は更けていきました。

翌日、共有スペースで「徒然草」を読んでいるとルナがやってきて、会話を交わすうちに話題は戦争のことになっていきました。ドイツと日本が第二次大戦で負け、それぞれの復興のプロセスが異なるから興味があって日本にきたそうです。

大学で政治学を専攻し勉強中の二十歳の彼女。戦争は政府同士が起こすよね、という問いかけに、政府だけではなく戦争をしたがる個人も残念ながらいる、だけど全員が敗者で勝者は誰もいないということ、未来のために自信はないけど努力を続けないといけないこと等、様々な印象的な言葉が心に残りました。つたない英語で１時間くらい話しましたが、ヨーロッパで直面している厳しい現状を感じました。

私もですが戦争を経験した世代が少なくなり、戦争の痛みが継承されにくくなってきているのではないでしょうか。

インターネット全盛の時代であっても情報を的確に判断できる知識や思考がなければ、何らかの思惑に操られてしまう危険が増しているのではないでしょうか。

戦争について決して人ごとではなく、真剣に向き合い考えていかなければならないと、改めて実感した滞在でした。

ブライスのこと（その１）

飛行機の隣の席に誰が来るのか、来ないのか。それは長旅の快適さを左右する重大な問題です。隣がいなければ足を延ばせる範囲も広がりますし、トイレにも自由に行けます。

ある時の旅、その時は８時間余りのフライトでした。搭乗時間締め切りまであとわずかで、今日は誰も来ないかな…と期待していましたが、ギリギリになって体が大きな、刺青が目立つ男性がやってきて座りました。正直ちょっぴりガッカリしましたが、まあ仕方ないです。飛行機は飛び立ち、しばらくしたらドリンクサービスが始まりました。私は「地球の歩き方」に書いてあった現地のビールを注文したところ隣の彼は「Good　Beer」と、嬉しそうに話しかけてきました。名前はブライス、二十一歳。バヌアツ出身で、フランスで経営を学び、十か月ぶりに母国に帰るということでした。サッカー大好きで、マルセイユに所属している日本の選手、酒井がいい選手だとしきりにほめていました。

彼は素直でオープンな性格で、将来会社を経営したいと願っており、そのためには少数派のフランス語だけではだめで、まずは英語を身に付けたいと言っていました。英語はシンプルだからたくさんの人に話されるのだとも。

フランス語と日本語とそれぞれ異なる母国語の二人が、英語という共通の言語でコミュニケーションしようとするから言いたいことを表現するのは大変でしたが、お互いの「知りたい」という意思が下支えしてほとんど伝えたいことは伝えられたと感じました。さてその中身は次回に続きます。

校長室より

吹く風の中に、暖かさを感じる瞬間が多くなりました。新しい年度を迎えますが、今年関わった全ての方々にとってこの一年が忘れがたく、次の年はさらに素晴らしい年になるように願っています。